

2013年度
世 界 史
(問 題)

〈 H2507BY16 〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および記述解答用紙を開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. マーク解答用紙記入上の注意
 - (a) 印刷されている受験番号を確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (b) 解答用紙の解答欄は、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
 - (c) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないこと。
 - (d) マーク欄は、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

(例)	マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
	マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

4. 記述解答用紙の所定の欄（2 か所）に、氏名および受験票に記載されている受験番号を正確に記入すること。受験番号は、右詰めで記入し、番号欄に余白が生じる場合でも、番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3825番 ⇨

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

※数字は読みやすいように、はっきり記入すること。

読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

中国王朝の対外政策は、A冊封とB朝貢を軸になされてきた。都には海を渡って来航する使節も多くいたが、秦漢以来、陸域国家として存続してきた中国王朝が海域に対して特段の施策を用意することは稀であった。ただ、唐代の市舶司は、朝貢とは異なる互市の考えにもとづき、C南海交易を管理するためにDに置かれた役所であった。互市は、もともと内陸辺境で遊牧民と交易する場であったが、それを海外貿易に応用したのである。宋代になるとF複数の市舶司が置かれ、朝貢貿易より市舶司を通しての交易が盛んとなった。その傾向は元に引き継がれたが、明になるとG海域対策が意識的に行われるようになる。貿易は朝貢貿易に限り、民間の海外貿易は禁止された。H永楽帝によるI鄭和艦隊の派遣は、朝貢貿易を最大限に拡大しようとする意図に出る。次の清も海外貿易は基本的に皇帝が賜る恩恵としてJ国家が管理する体制をとった。18世紀末に中国を訪れたKマカートニーは、こうしたL貿易体制の変更を求める使節団の全権大使であった。

問A 下線部Aの説明として正しいものはどれか。

1. 秦の始皇帝は、趙佗を南越王に封じた。
2. 漢の劉邦は、冒頓単于を匈奴王に封じた。
3. 唐の玄宗は、大祚榮を渤海郡王に封じた。
4. 明の洪武帝は、足利義満を日本国王に封じた。

問B 下線部Bの説明として誤っているものはどれか。

1. 日本は唐の冊封を受けていなかったが、遣唐使は朝貢使節として扱われた。
2. 中国王朝が朝貢品への見返りとして与える物品目当てに、朝貢使節を送る国もあった。
3. 朝貢使節に参加した商人が、寄港地で現地の商人と交易することもあった。
4. 香木は中国の必需品のため、明朝は東南アジア諸国に毎年数回の朝貢を要求した。

問C 下線部Cの説明として正しいものはどれか。

1. アッバース朝の成立にともない、ムスリム商人の活動が活発となって中国に来航するものも現れた。
2. ウイグルの保護を受けたソグド商人が多数往来し、かれらは沿海地域に蕃坊とよばれる居住区を形成した。
3. 唐から朝貢船を支給された琉球は、東南アジアと中国間の中継貿易に従事し莫大な利益を上げた。
4. グプタ朝の盛行はインド商人の来航を促し、ダウ船を操ってインド洋交易の物産を中国にもたらした。

問D Dに入る語句はどれか。

1. 広州
2. 泉州
3. 揚州
4. 杭州

問E 下線部Eの交易品としてふさわしくないものはどれか。

1. 絹製品
2. 銅銭
3. 茶
4. 馬

問F 下線部Fの都市として該当しないものはどれか。

1. 秀州
2. 明州
3. 温州
4. 上海

問G 下線部Gの説明として誤ったものはどれか。

1. 朱元璋は、統一戦争の過程で有力な敵対陣営のなかに海上勢力が存在したので、その力を削ぐ方針をとった。
2. 沿岸を荒らす前期倭寇の存在に頭を悩ませた明朝は、日本に倭寇鎮圧を求める一方、中国人の海外渡航を禁止した。
3. 石見銀山や新大陸から大量の銀が流入することで物価騰貴に直面した政府は、海禁策をとり銀の流入を制限した。
4. 日本と中国をまたにかけ東シナ海に覇を唱えた後期倭寇が、明の官憲によって鎮圧されると海禁策は緩和された。

問H 下線部Hに関係しない事項はどれか。

1. 靖難の役
2. 北京遷都
3. モンゴル遠征
4. 中書省廃止

問I 下線部Iの説明として誤っているものはどれか。

1. 鄭和は、雲南出身のイスラーム教徒で明軍の捕虜となり、永楽帝に仕えた宦官であった。
2. 7回の航海で艦隊の中心となった船は、宝船と呼ばれ当時世界最大の木造帆船であった。
3. ヴァスコ＝ダ＝ガマを冷遇したカリカットの領主は、その後に訪れた鄭和を厚遇した。
4. 鄭和の分遣隊は、アラビア海を渡りアフリカ東岸のマリンディにまで至った。

問J 下線部Jに直接は関係しない語句はどれか。

1. 総理衙門
2. 広東十三行
3. 公行
4. 海関

問K 下線部Kと関連のない人物は誰か。

1. 乾隆帝
2. ジョージ3世
3. ヴィクトリア女王
4. アマースト

問L 下線部Lに関係する記述として誤っているものはどれか。

1. イギリス使節は貢使として扱われ、皇帝に対して臣下の礼である三跪九叩頭の礼が要求されたが拒絶した。
2. イギリス本国の指令は、東インド会社の中国貿易独占権を廃したため、清と条約を結び貿易量を以前に戻し拡大することであった。
3. 当時のイギリスは、喫茶の習慣が社会に広まり中国からの大量の茶葉の輸入が財政を圧迫していたので中国への輸出拡大をはかった。
4. その後のアヘン戦争の一因は、清朝が中華思想から脱却できず、主権国家の対等の関係という近代外交の概念を理解しなかったことにある。

Ⅱ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

中世ヨーロッパ世界では11世紀以降、^A農業技術の革新により穀物の収穫率が向上すると、余剰穀物の増加に伴い商業も急速に発展した。南の地中海世界では、イタリアの諸都市が^Bビザンツ帝国や十字軍国家と交易を行っただけでなく、イスラーム世界とも友好的に交易を行い、^Cを首都としたアイユーブ朝やそれを継承する^D朝に、戦争に必要な鉄や木材まで供給していた。北のヨーロッパ世界では、リューベックやエルベ川河口の都市^Eが、北海やバルト海沿岸における海産物や木材の取引で繁栄したが、フランドル地方の諸都市も^F毛織物産業を育成し、全ヨーロッパに毛織物を輸出して経済的に発展した。

しかし15世紀になると、東地中海世界で^Gの国家が勢力を拡大し、地中海から黒海を経てアジアに向かう交易ルートが安全ではなくなる。その結果ヨーロッパの諸国は、大西洋を経由してアジアに到達する新航路の探検に向かった。最初にポルトガルがアフリカ周りのインド航路を開拓し、1510年にインドの^Hを占領すると、この都市をアジアでの香辛料貿易の拠点とした。やや遅れてスペインも新航路の開拓に乗り出しアメリカ大陸を発見すると、ラテンアメリカの大部分を植民地とした。スペインは^Iラテンアメリカの銀山で採掘される大量の銀により繁栄し、国王^Jの時代には、世界中に植民地を獲得して「太陽の沈まぬ国」と言われた。また^Kスペインからの独立を果たしたオランダもアジアに進出し、^Lを根拠地に貿易を行い、首都アムステルダムは国際金融の中心地として繁栄した。

問A 下線部Aに直接関連しない事項はどれか。

1. 三圃制の普及 2. 重量有輪犂の使用 3. ノーフォーク農法 4. 水車の改良

問B 下線部Bのビザンツ帝国に関する説明で誤っているものはどれか。

1. 皇帝ユスティニアヌスは、ササン朝ペルシアなどの外敵と戦うために軍管区制（テーマ制）を施行した。
2. 皇帝レオン3世が聖像禁止令を発布すると、ビザンツ教会内部だけでなくローマ・カトリック教会とも軋轢が生じた。
3. ビザンツ帝国では11世紀以降、西欧の封建制に似た、軍役奉仕と結びついた土地貸与の制度（プロノイア制）が広まった。
4. コンスタンティノーブルのハギア・ソフィア大聖堂は、皇帝ユスティニアヌスが建てたビザンツ様式の教会建築である。

問C ^Cに当てはまる都市はどれか。

1. ダマスカス 2. カイロ 3. アレクサンドリア 4. バグダード

問D ^Dの王朝に関連する説明で誤っているものはどれか。

1. この王朝の保護下で活動したカーリミー商人は地中海とインド洋を結ぶ交易に従事した。
2. この王朝はモンゴル軍の侵入を阻止するとともに十字軍も撃退した。
3. この王朝は13世紀の第五代スルタン・バイバルスのときに全盛期を迎えた。
4. この王朝を創設した人物はクルド人の武将でザンギー朝に仕えたサラディンである。

問E ^Eに当てはまる都市はどれか。

1. ブレーメン 2. ダンツィヒ 3. ハンブルク 4. ドレスデン

問F 下線部Fに関連する説明で誤りはどれか。

1. フランドルの諸都市は毛織物の原料となる羊毛をイギリスから輸入していた。
2. 百年戦争の一因は、フランスが毛織物業で繁栄したフランドル地方を直接の支配下に置こうとしたことである。
3. 中世後期にはイタリアの都市フィレンツェはフランドル地方と並ぶ毛織物業の中心地となった。
4. フランドル地方の都市オルレアンは毛織物業で繁栄した。

問G **G** についての説明で誤りはどれか。

1. この国家は16世紀にウィーンを包囲し一時陥落させた。
2. この国家の海軍は16世紀前半に、スペイン、ヴェネツィア、ローマ教皇の連合艦隊を海戦で破った。
3. この国家は17世紀末には勢力が衰え、ハンガリーなどの支配地をオーストリアに割譲した。
4. この国家では、キリスト教徒も貢納の義務を果たせば信仰を守って生活できた。

問H **H** に当てはまる都市はどれか。

1. ボンベイ
2. デリー
3. マドラス
4. ゴア

問I 下線部Iに関連した説明で正しいものはどれか。

1. ラテンアメリカからの銀の大量流入で、ヨーロッパ世界では物価が安定し好景気が続いた。
2. 銀山の開発のために、ヨーロッパからスラヴ人奴隷が大量に連れてこられた。
3. 銀の大量流入で、ヨーロッパのフッガー家などの金融業者は没落した。
4. イグナティウス＝ロヨラは、『インディアスの破壊についての簡潔な報告』でインディオの悲惨な状況を弾劾した。

問J **J** の国王に関する説明で正しいものはどれか。

1. 「太陽の沈まぬ国」と言われるほど領土を拡大した一因には、この国王のときにポルトガルを併合したことがある。
2. この国王は神聖ローマ皇帝にもなったので、ドイツでの宗教改革にも直面した。
3. この国王のときにグラナダが陥落し、イベリア半島でのレコンキスタは終了した。
4. この国王の死をきっかけに、フランスとの間でスペイン継承戦争が起こった。

問K 下線部Kに関連した説明で正しいものはどれか。

1. オランダの地域にはルター派が多く、スペインのカトリック化政策と対立したことが独立の一因である。
2. オランダとして独立したのはネーデルラントの南部10州で、北部7州はスペインの支配下に留まった。
3. 独立したオランダの正式名称は、ネーデルラント連邦共和国である。
4. オランダ独立を支援したイギリスの海軍は、スペインの無敵艦隊に敗れ制海権を失った。

問L **L** に当てはまる都市はどれか。

1. バタヴィア
2. マカオ
3. マニラ
4. ジャカルタ

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

18世紀後半、北米大陸では、イギリス本国と13の植民地との間で徐々に緊張が高まっていった。1774年9月には、12の植民地の代表が集まって第1回大陸会議を開催し、イギリス本国からの常備軍の駐屯や、植民地の立法への干渉に対する抗議などを行った。翌1775年には、**C**において武力衝突が起こり、それらが独立戦争の発端となった。その後、植民地側は、1776年7月に第2回大陸会議において独立宣言を採択した。ただ、植民地側も、必ずしもイギリス本国との戦いに肯定的だった愛国派たちばかりであったわけではなく、イギリス国王への忠誠を維持する国王派や中立派の者たちもいた。そうした立場の違う者らの間における対立は、その後のアメリカ連合規約によるアメリカ合衆国の発足やアメリカ合衆国憲法の制定などを経たのちも、引き続き残存していくこととなった。

ラテンアメリカにおいても、19世紀初頭から各地で独立の気運が高まっていった。まず、ハイチが1804年に**H**から独立を果たしたのを皮切りに、南米北部ではシモン＝ボリバル、同南部ではサン＝マルティンらの指導により、1811年にベネズエラ、1819年に大コロンビア共和国などの国々が独立を宣言した。また、**J**もナポレオン戦争のために同地に避難してきていたポルトガル王室のペドロ王子がナポレオン失脚後も残り、1822年に同王子が皇帝となって独立を宣言した。こうした各国の独立の動きに対しては、ヨーロッパ諸国からの抵抗もあったが、アメリカ合衆国がそうしたヨーロッパ諸国の干渉に反対し、また、イギリスもラテンアメリカ諸国の動きを支持するとともに、その後、輸出用作物や製品の生産に必要な資本拠出をはじめとして、同地域に大きな影響力をもつに至った。

問A 下線部Aの説明として誤っているものはどれか。

1. ニューヨークは、当初、オランダが領有していた。
2. ピューリタンらの一団が、メイフラワー号でプリマスに渡り植民地を設けた。
3. ペンシルヴェニアは、当初、クエーカー教徒らを中心に入植が行われた。
4. ジョージアを最初に、各地に植民地議会が設けられ、植民地ごとの自治を拡大させていった。

問B 下線部Bに関して、その背景には、イギリス本国が植民地による貿易その他の活動を制限したり、または高関税を課すことを目的とした制定法を定めたことがあったが、次の中でそうした制定法に当てはまらないものはどれか。

1. 印紙法 (Stamp Act)
2. 審査法 (Test Act)
3. 砂糖法 (Sugar Act)
4. 茶法 (Tea Act)

問C **C**に当てはまる語はどれか。

1. レキシントンとコンコード
2. サラトガとヨークタウン
3. サラトガとコンコード
4. レキシントンとヨークタウン

問D 下線部Dに関して、独立軍に国外から義勇兵として参加した人物ではないのはどれか。

1. コシューシコ
2. ラ＝ファイエット
3. ミラボー
4. サン＝シモン

問E 下線部Eに関する説明として誤っているものはどれか。

1. 後に第3代大統領となるジェファソンを中心として起草された。
2. 公共の福祉に適う場合、政府が生来的に人民の財産権や自由を制限する権利を有している旨を定めた。
3. 日本には、その内容が福沢諭吉によって翻訳され、「西洋事情」の中で紹介された。
4. 英国王による悪政を列挙し、それらによって植民地が独立せざるを得ない旨を主張していた。

問F 下線部Fに関する説明として誤っているものはどれか。

1. 国名をアメリカ合衆国 (United States of America) と定めた。
2. 各州からの代表からなる連合議会 (Congress) について定めたが、その権限は弱く、各州には主権その他の大きな権限が認められたままであった。
3. 常設の連合裁判所を設ける旨を定めた。
4. 1777年の大陸会議における承認後、各州での批准が遅れ、発効するまでに3年以上を要した。

問G 下線部Gに関する説明として誤っているものはどれか。

1. フィラデルフィアで開かれた憲法制定会議において制定された。
2. 連邦の権限強化を強く主張したワシントンの提案を基礎として起草および制定された。
3. 連邦議会について、各州議会が2名ずつ選出する議員からなる上院と、人口に比例して選出される議員からなる下院の二院制をとる旨を定めた。
4. 連邦の行政を担う大統領の任期は4年とする旨を定めた。

問H H に当てはまる語はどれか。

1. フランス
2. イギリス
3. オーストリア
4. スペイン

問I 下線部Iの人物に関して、正しい説明はどれか。

1. メキシコにおいて、イダルゴによる独立運動の失敗後、独立運動を指導した。
2. パナマ会議において、ヨーロッパ諸国に対するラテンアメリカ諸国による共同防御と将来の統一国家の建設に関する提案を行い、各国から支持された。
3. ベネズエラ出身であり、同国の解放や独立にも大きく寄与した。
4. ペルーの独立を支援し、同国でポルトガル軍を撃退した。

問J J に当てはまる語はどれか。

1. アルゼンチン
2. チリ
3. パラグアイ
4. ブラジル

問K 下線部Kに関して、19世紀前半のアメリカに関連する出来事のうち、内容が誤っているのはどれか。

1. ジャクソンの支持者たちによって民主党 (Democratic Party) が形成された。
2. 反ジャクソン派が合体してホイッグ党 (Whig Party) が形成された。
3. ジャクソン政権の下で、大統領選挙で勝った党派の者を新たに連邦政府の官吏とし、連邦政府の官吏の入れ替えを行う獵官制 (スポイルズ=システム) が確立されることとなった。
4. ジャクソン政権の下で、奴隷とインディアンは除かれたものの、女性も含めた普通選挙制度が整備された。

問L 下線部Lに関して、19世紀後半から20世紀初頭に起こった出来事のうち、内容が誤っているのはどれか。

1. ディアスがメキシコ大統領に就任し、現行のメキシコ憲法を制定して、自らの権限を強大なものとした。
2. ペルーにおいてインディオの文化の擁護と社会的復権を求める社会運動「インディヘニスモ」が起こった。
3. コロンビアからパナマが分離・独立し、同国にパナマ運河が開通した。
4. プエルトリコは、アメリカ=スペイン戦争によってアメリカ合衆国に占領され、後に同国の領土となった。

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 は、記述解答用紙の所定欄に適切な語句・数字を記入せよ。下線部14は、その語義と該当する国・地域の経済発展の要因について100字以内で説明せよ。なお、句読点・算用数字も1字と数える。

19世紀後半から20世紀はじめにかけては、運輸・通信手段の発達とともに世界経済の枠組みが大きく変化した。1851年にドーバー海峡に敷設された 1 は1866年には大西洋を横断し、1870年にはイギリスと 2 の間にも敷設された。フランスの外交官 3 が建設を手がけた 4 運河は1869年に開通し、同じ年にアメリカ合衆国では最初の 5 が敷設されて東部と西部がつながった。アジアでは1896年から建設がはじまっていた 6 がシベリア鉄道と連結されてヨーロッパ＝ロシアと中国東北部が結びつけられた。通信技術の発達は特に金融に関わる情報の高速化をもたらしロンドンの金融中心地である 7 の役割が高まっていった。

こうして19世紀後半・20世紀初頭には世界経済のグローバル化が進展したが、このグローバル化の流れは第一次世界大戦と1929年の世界恐慌を経て押しとどめられた。1932年には恐慌を克服するためにイギリス連邦の経済会議が開かれて 8 協定が締結され、本国と自治領等の間だけで特別の関税を敷いて域外からの貿易をブロックする 9 制度が作り上げられた。

現在はふたたびグローバル化の時代を迎えているが、19世紀後半・20世紀初頭のグローバル化とはその様相を大きく異にしている。かつては列強が世界各地に 10 を経営したが、いまやこれはほぼ過去のものとなった。かつてイギリスが主導した自由貿易は、第二次大戦後には1947年に調印された 11 の枠組み、さらにこれを発展させた常設機関として1995年に設立された 12 によって推進されている。19世紀から20世紀にかけて貿易・決済の基準となっていた基軸通貨である 13 は金に基礎を置いていたが、現在の基軸通貨は国際通貨体制のなかで不安定な位置におかれている。かつては「第三世界」と一括されていた地域に1970年代になるとN I E S¹⁴、ごく最近ではB R I C Sと呼ばれる一群の国・地域があらわれている。何よりもインターネットに媒介された情報の伝達はかつてとは比較にならないほど大量・高速化しており、現代の世界に大きな影響をおよぼしている。

〔以 下 余 白〕